

# 童

2021年8月31日。

残暑が厳しい中、二学期が始まりました。夏休み前と変わらない、これから夏が始まるのではないかと錯覚するような毎日ですが、大地の入り口には、真っ赤に色づき始めたリンゴが実り、子ども達の口にはプルーンの実が頬張れる中、確実に実りの秋が来ていることを実感します。

また、大地スタッフの顔ぶれが変わり(!?)、平均年齢がぐっとあがりました。ガー君の育休に変わり、青ちゃんが期間限定で久しぶりにレギュラー現役現場復帰し、ノンタン母さんもリリーフ登板が多くなりました。大地創業期では、朝夕の送迎(長野市 豊野町 小布施町 中野市をぐるりと回っていた)、保育 清掃 環境整備 事務など、全てを行っていた頃を思い出しますが、さすがに夜の疲れは当時とは違いますが、それほどでは無く、まだまだやれると確信しています。それは、子ども達からのエネルギーのお陰です。還暦とは、第二の人生のスタートと言いますが、還暦を過ぎて、再び登板ができるなんて幸せなこと。妻と2人で、再度創業期の気分に戻れるなんて幸せなことだと感動感謝の毎日です。

夏休みの野外教室も、同じように2人で企画実行して乗り切り、そのままのエネルギーで幼稚園に突入!! 幸せな毎日です..... と言っても、ガー君が復帰する10月初旬を待ち焦がれながら、その賞味期限が切れた後の反動が怖い!?

コロナの勢いは止まらず、世の中は不安不安な毎日ですが、各自主体的にできる事を精一杯考えて行い、精神的肉体的に免疫力を高め、楽観的な気持ちで楽しみと喜びを心に満たしていきましょう。この精神的な方向から免疫力を高める方法は、なんと言っても幼児とメルヘンとファンタジックとほらの世界で楽しむ毎日です。面白い話しながら、森や田園を散歩し、動植物昆虫たちと話し、美味しい木の実や果実などを頬張り、火を焚いたり、共に汗をかいたり、ニヤニヤしながら幼児の遊びを眺めたり..... こんな健康的な毎日はありませんね。



## 【大草原の小さな家キャンプ】

2021年大地サマキャンプを終えて、ゆっくり本を読んでみました。今夏のキャンプに複数参加したお子さんの保護者から頂いた本です。全て、大草原の小さな家 のワイルダー ローラ ローズの本でした。まず、ローラ 愛の物語を読んでみました。それは、ローラが10歳ぐらいまで、両親達と一緒に、大きな森を求めて、つぎつぎに開拓地を見つけ続ける模様を描いた物語です。

馬車は子守歌のように揺れています。一行は、クリークや丘をいくつも超えていきました、小さな高原をこえ、深い森を通過してゆっくり進みました。夜、みんなは陽気に萌えるキャンプの焚き火の周りに集まって夕ご飯を食べました。母さんとポリーおばさんが、小さな 鉄製の足つきフライパンで塩豚を炒めたり、熱い濃いコーヒーを入れたり、小さな焼きパンを作ったりしている間、女の子達は遊びました。時には、ホットケーキやベーコンや糖蜜までたべることがありました。(抜粋)

満点の星のもとでの焚き火 月明かり 動物たちの声 ログハウス作り 開拓 穀物の栽培 そして子ども達の遊び お父さんの労働 毎晩焚き火を囲んでのお父さんのお話やバイオリン お母さんの裁縫や料理などの場面が次々に登場していきます.....

もともとワイルダーの本は大好きですが、サマキャンプのほとぼりから冷めないうちに、これらの本を読んだ瞬間にこれって、俺たちの野外教室の夏のキャンプと変わらないかも、このイメージかも知れないと嬉しくなりました。プレゼントして下さった保護者は、そんな気持ちがあったのかも知れないと思いました。

- ①野外で寝るべし ②食事は全て薪燃料を使うべし ③食事材料は、大地産を基本とすべし ④着替え 風呂 整理 整頓などは忘れるべし(より大事にすべき遊びを優先する) ⑤自然の流れを友達とすべし ⑥参加者は 年齢 地位 役職 年収 ? を問わず平等であるべし 以上が 今夏のキャンプのキャッチフレーズでした。

開拓地を求めて移動してはいないけれど(夜中に 移動を余儀なくされたこともありましたが!?)、毎日、竈や焚き火で調理をし、自然の中で子ども達同士が語り合い 遊び 戯れ そして、毎晩 星空のもとでお話を聴きながら眠る。天気の時、星や月を見ながら 雨の時は軒下やガレージに逃げ込みながら。

早朝 小鳥がさえずり あたりが明るくなる頃から、子ども達は朝露に濡れたシュラフから抜け出し、そのまま雑木林へ出かけたり、シュラフの中でお話をしたり。竈に火をつけ、煙突から煙が登り、そして、まな板の上で包丁の音が響き 良い匂いが漂ってくる。いつの間にか 一遊び済ませた子ども達が集まり、朝食を野外で楽しむ。終了後は、自分たちで食器を洗い、天日で干している。

海へ行ったり 川へ行ったり 山へ行ったり 時には料理をしたり それらは細切れでは無く 徹底的に集中できる環境と時間を保証して遊びこむ。昼ご飯も、朝準備したり、現地で調理したりして、決して お店で調達したりしない

くたくたに疲れて帰ってきても、再び 火を焚き 夕ご飯の準備 風呂焚き などをして 夕ご飯を楽しむ。きれいに着替えたりする暇も無いほど、生活の流れを自分たちで作っていく.....などの結果、参加した初日と同じ服装で5日後に帰る子ども達 着替えを一組ぐらいいしか持っていない参加者多数! ? 不潔という概念ではなく、生きている毎日に夢中 そんな暇はない とにかく遊びこむ 遊び疲れ食べて眠る 細切れなマニュアル プログラム 時間割のような世界とは違う流れ 風呂に入らなくても着替えなくてもそれ以上に貴重でやれるべき事を優先しようという姿勢です。もちろん、メリハリは大切で、その場面 その雰囲気になったら、きちんとしよう という気持ち!!

夕ご飯後の団らんの時間。肝試しと称して暗い森を友達と歩いたり。焚き火を囲んで、歌ったり踊ったり、お話を聴いたり。特に、常連の参加者達には、夜寝るときの、ノンタン母さんのお話を楽しみに参加する子ども達がとても多いのが嬉しいことです。なんと言っても、1時間以上話しているのですから。ノンタン母さんのまさにライフワークです。星や月を眺めながら、真っ暗な闇の中、草の匂いとその柔らかさ 土の感触などを味わいながら、くたくたに疲れた身体で お話を聴きながら眠りにつく。そのお話の内容は 勧善懲悪 安心 期待 意欲 冒険 喜びなどにあふれたもの。

こんな毎日を一ヶ月もおくってただけに、大草原の小さな家時代 の世界とダブってしまう自分がいます。こんなことを考えると、来夏は、馬車で移動か、それとも 徒歩でバックパッカーとして 皆で移動して楽しむか、それとも山々を縦走するか 放浪の旅に出るか..... 楽しみと期待でいっぱいです。

一部の皆さんもご存じのタッキーこと滝澤千佳子さんの大地 OG(現在高2)、は のんたん母さんのことを、いつもキャロラインと呼んでいました。でも、青ちゃんの事は、誰も チャールズ フィリップとは呼んでくれない! ?